

平成 30 年度学校評価表

遊学館高等学校

教育目的	建学の精神のもと、教師と生徒がともに生活する中で、教師の人格を生徒に伝え、教師と生徒が一体となり、高い人格と深い情操を陶冶することを教育の目的とし、健康で、品性を備え、知性あふれる生徒の育成を目指す。
教育目標	文武両道を奨励し、進学や部活動等において高い実績を上げることを目指し、互いが互いを尊重し、思いやる心と愛校心に満ちた元気の良い生徒を育成する。

アンケート及び調査

	名 称	実施時期	対象	担当部署
1	学校行事アンケート（体育祭）	6 月	全校生徒	保健体育科
2	学校行事アンケート（学園祭）	9 月	全校生徒	生徒会
3	学校生活アンケート	10 月	全校生徒	生徒指導部（主）、遊学講座運営委員会、1 年学年会、2 年学年会、3 年学年会
4	授業アンケート	12 月	全校生徒	教務部
5	卒業生アンケート	2 月	3 年生	3 年学年会
6	修学旅行アンケート	3 月	2 年生	2 年学年会
7	家庭学習実態調査	毎月	全校生徒	教務部、1 年学年会、2 年学年会、3 年学年会

重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
重点目標 1. 心身ともに健康な生徒の育成						
①	正義感を持った心根の優しい生徒の育成 ○SNS によるトラブル及びいじめの未然防止 ○スクールカウンセラーを配置し教育相談体制を充実	生徒指導部	SNS によるトラブルは年々増加している。いじめにつながるケースもあった。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	SNS の問題が後を絶たない。4 月の SNS 講話も内容を一新して伝えていきたい。いじめ防止に努めたい。スクールカウンセラーはいつも予約でいっぱいだった状況であった。
②	明るく元気に進んで挨拶ができる	生徒指導部	部活動の生徒は良好である。しかしながら、校門指導においても挨拶が出来ない生徒がいる。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	部活動の生徒や 1 年生は良好だったと思う。上級生になっても挨拶が続けられるように指導したい。
③	正しい頭髪・服装で登校 ○校門指導（毎日実施） ○服装指導期間（定期的） ○服装指導（日常的） ○頭髪指導（月一回）	生徒指導部	スカートの指導は課題を残した。また、各指導書の発行数が増加した。	生活指導通知書の発行枚数を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超	C	頭髪指導は係の先生方が頑張ってくれた。しかしながら、スカート丈の指導は課題を残したままである。先生方に厳しく指導していただく必要がある。
④	愛校心を持って校内美化に取り組む	生徒指導部	率先して清掃活動をしている生徒は少ない。一部の生徒に負担がかかっている。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	B 評価になっているが、生徒の清掃への関心は少ないと思う。一部の生徒だけに負担がかかっている。
⑤	不注意による遅刻をなくす ○遅刻業後指導の徹底	生徒指導部	例年よりは良好であった。しかしながら、欠席については増加した。	遅刻者集計表で 10%未満の月数 A 7 ヶ月以上 B 6 ヶ月以上 C 5 ヶ月以上 D 5 ヶ月未満	C	特定の生徒の遅刻が目立つ。家庭の協力もすくなく、電話連絡すらしていただけない家庭もある。
⑥	交通・公共マナー指導 ○自転車マナーの向上 ○バス及び電車利用時のマナーの向上	生徒指導部	自転車による苦情が増加している。また、バスの乗車マナーにおいても苦情があった。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	アンケートは A 評価だが、交通マナーの苦情は増加している。学校での指導だけでは限界すら感じる。家庭でのしつけが問題だと思う。

重点目標 2. 楽しく明るい学校生活を送る						
①	主権者教育を見据えた生徒会活動の活性化	生徒会及び議会	議会開催の回数は増えたが、活発な議論の場ではない。生徒の意見を多く取り入れることができる議会としたい。	議会の開催回数 A 年 6 回以上 B 5 回以上 C 4 回以上 D 4 回未満	D	部活動の発足解散に關しての議会が開かれたが、議論とまではいかない。今年度は生徒会則を改定した。これを機にこれまでとは違った議会の運営をしていきたい。
②	本校らしい体育祭・学園祭 ○生徒自身の手で作り上げ、生徒全員が参加し、楽しむことができる体育祭・学園祭を行う	保健体育科 ＜体育祭＞	生徒会の協力もあり、団の団結力のみならず、学校全体の愛校心を育むことができた体育祭となった。例年同様、保護者の観覧席について、対応を工夫する。	体育祭アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	今年度も生徒の満足度は高かった。しかし、安全面において競技でのルール違反があり、けが人が出てしまった。来年度は改善し、競技を行っていく。
		生徒会	生徒の満足度は高かった。生徒が	学園祭アンケート結果	B	生徒は各々自分達で楽しもうとしていた。た

		<学園祭>	楽しめることは当然であるが、安全面なども考えて、より良いものとしたい。	A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		くさんの先生方の協力もあって、新しい取り組みもできた。今後はまず安全の面からこれまでとは違った取り組みをしていきたい。
③	充実した修学旅行を実施する ○事前・事後（プレゼン含む）学習の内容を深める	2 年学年会	肯定的評価を得られた。 事前研修・事後研修ともに、生徒達はよく取り組んでいた。 特に事後研修は、発表会も実施し、充実した。	修学旅行アンケート結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	事前研修、事後研修ともに予定通り実施することができ、生徒は真剣に取り組んでいた。発表会も滞りなく実施することができ、学年掲示板にも掲示した。アンケート結果も肯定評価が圧倒的多数であった。
④	卒業生アンケートを実施し、本校の満足度調査を行う	3 年学年会	進路実現、学校行事などにおいて満足度は高かった。ただ、特進や理系などにおいては、進路等の満足度が低い。	卒業生アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	概ね肯定的評価を得られた。特に高い評価を得られた項目として、進路指導の項目と、行事・特別活動の項目があげられる。
⑤	遊学講座に積極的に参加し、自分の可能性にチャレンジする	遊学講座 運営委員会	肯定評価 93% 新教育課程における位置付けを再考し、いっそうの充実に努めていきたい。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	肯定評価 92% 平日の授業では計れない能力を発揮した生徒がいる一方で、成績不振者 1 名、時数不足者 8 名が出たことは残念である。
⑥	部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○退部届を整備し、退部者を把握する	特別活動部	5 月（1～3 年生） 男子：70% 女子：44% 全体：56% 10 月（1・2 年生） 男子：70% 女子：66% 全体：68%	部活動加入率 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	5 月 C 10 月 B	5 月は、ここ数年でかなり加入率が上昇した。 10 月は、その年によって、加入率は上下するものの最近では 60%前後である。
⑦	部活動において、県総体等（3 年生が出場する最後の大会）での成績上位をめざす	特別活動部	団体競技： 男女卓球部（県 1 位）男女駅伝競走部（県 1 位）女子バレー部・サッカー一部（ともに県ベスト 4） 個人競技： 男女卓球部（県 1 位）女子駅伝競走部（県 1 位）	学校対抗戦において、 優勝 10 点、準優勝 6 点 ベスト 4 入賞 4 点 ベスト 8 入賞 2 点 で換算 A 80 点以上 B 70 点以上 C 60 点以上 D 60 点未満	D	限られた部活動が優勝など優秀な成績を収めている。（男女卓球など）
⑧	学校のグローバル化を推進する	国際交流 推進委員会	生徒間交流はクリスマスカードを送った。各生徒にシジス校から手紙が届いた。	シジス校との交流を計画する A 年間 6 回以上 B 5 回以上 C 4 回以上 D 4 回未満	D	委員 3 名がシジス校を訪問し、来年度のシジス校 12 名の生徒来校（1 週間）について話し合いをもった。今年度、委員会として活動がなかったが、シジス校生徒来校に向けて、企画していきたい。

重点目標 3. 確かな基礎学力の向上						
①	年 3 回の研究授業 ○主体的・協働的な学びの研究を進める	教務部 教科会	主体的・対話的な取り組みが意識され、それが深い学びにつながる方法がいろいろと考えられていた。ICT の活用方法がさまざまみられた。	ループリック 5 点満点評価（回数・準備・合評会・改善度） A 4.3 点以上 B 3.6 点以上 C 3.0 点以上 D 3.0 点未満	B	ICT の活用を中心とした教科の授業と対話的な取り組みを中心とした授業に分かれたような形で研究授業が行われていた。今後は二つの方法をさらに展開することや基礎基本の徹底をいかに図るかを各教科で検討する。
②	年 5 回の互見授業週間 ○担任が互見授業を通して、クラスの授業中の雰囲気をつかむ	教務部 学年会	時期により参加しやすい時期とそうでない時期があった。ICT の活用も各教科で考え動き出している。	ループリック 5 点満点評価（見学頻度・改善策） A 4.3 点以上 B 3.6 点以上 C 3.0 点以上 D 3.0 点未満	B	ICT の活用がさらにみられるようになった。協働的な学びを実践する中でさまざまな課題が見つかっている。協働的な学びを進める方法をクラス担任も含めて検討していく。
③	わかる授業、学力が身につく授業を展開 ○計画的に、各教室に吊り下げ型のプロジェクトを設置	教務部	改善策の検討として、教科内全体とまではいかないが、同一学習集団での授業内容の話し合いや、新たな取り組みへの報告などを行っていた。	授業アンケートの総合評価で、肯定的評価 80%以上の教員の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	ICT を使用することで視覚からの知識・情報の理解がしやすくなったと評価する生徒の割合が多かった。 授業アンケートは全学年実施した。アンケートは全生徒パソコン入力で行った。
④	個人面談カード等を活用し、家庭学習習慣の確立を目指す ○学校での学習（スペシャル講座等）を含む	教務部 各学年会	1 年生：面談準備シートを利用し、面談週間中などに活用した。Classi の生徒メモ欄に所見などを入力し活用した。家庭学習においては Classi の課題を宿題とし、夏期休暇中にはアクセス数全国 1 位を達成した。	家庭学習時間実態調査結果 ○1 年生 1 日平均 1 時間以上 ○2,3 年生 特進 1 日平均 3 時間以上 四大進学 2 時間以上 その他生徒 1 時間以上	1 年生 D	進路ガイダンスなどを通じて、進路選択について真剣に取り組むよう促し、学習にも取り組むように指導した。定期考査 2 週間前から計画表を作成し、考査に向けて計画的な学習を促した。平常時は、特に土日の学習時間を確保することが難しかった。

			2 年生：面談には 4 月当初の進路基本調査を活用した。Classi で夏期休暇課題、模擬試験対策課題を配信する。定期考査における生徒の学習の取り組みは良い。 3 年生：Classi は未導入。適正な進路実現に向かい、多くの面談を重ねた。進路決定後の学校生活についても指導を重ねた。	A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	2 年生 D	面談準備シート、考査事前目標・事後反省シートをもとに面談を行った。Classi の面談記録も活用しながら面談を行うことで 1 年次から連携した面談を行うこともできた。Classi では模擬試験の過去問題を配信し、生徒に事前の取り組みを行った。
⑤	授業態度の改善	教務部	授業態度指導カードの発行は 2 年生と 3 年生は昨年度とほぼ同じ数となったが、1 年生の発行は昨年度に比べ大きく減少した。	授業態度指導カードの発行枚数を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超	A	昨年度と比べ月によって改善された月とそうでない月があるが、最終的には大幅に減少した。特に 1 年生の減少数が多かった。
⑥	「総合的な学習の時間」を充実・発展させる	各学年会	1 年生：ベネッセの表現トレーニングを行い、表現力を高める訓練を行った。事後アンケートでは、ほとんどの生徒が自己の成長を実感できた。 2 年生：県内の学校見学や、大学・短大・専門学校・企業の説明会に参加するなど、進路の活動を行った。また、修学旅行に向けての事前研修、帰ってからの事後研修を行った。	学校生活アンケート（総合学習）の結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1 年生 A	「守破離」をテーマに、手本となる文章を読み、書き写すことで、文章力を上げていった。表現力や語彙力、様々な問題に対する関心などを高めていった。次年度は小論文という形で表現力も高めていきたい。
⑦	英語検定受験者の増加と資格取得	検定担当者（英語科）	今年度は英語科の先生と連携をとり、受験者数は 141 名と大幅に増え、合格者も 2 級 5 名、準 2 級 24 名、3 級 12 名となった。 1 次試験前には受験者を全員呼んでガイダンスを行い、1 次試験合格者は 2 次試験に向けて A L T と面接対策を行った。 特に面接が苦手な生徒が多く、今まで出来なかった 2 次試験対策が合格者数に直結した。	ルーブリック 10 点満点評価（受験者数・準 2 級以上の合格者数・取得率） A 8 点以上 B 5 点以上 C 2 点以上 D 2 点未満	C	結果 合格者：2 級 2 名 準 2 級 8 名 3 級 16 名 総受験者数：135 名 校内受験率：9.7% 合格率：18.5% 受験する生徒が 3 級に集中していた。今年度 3 級を合格した生徒が次年度に準 2 級を受検していくように促すことが必要である。3 年間英検を担当して、準 2 級までは勉強をしつかりさせれば多くの生徒が合格できることがわかった。しかし、2 級はクラスの上位の生徒でも取得が困難なため、十分な勉強量と英検の問題形式に対応した学習が必要であると考えられる。
⑧	第 2 回スタディーサポート結果の向上	教務部	各自の変化はあるが、全体としては昨年度と同じような結果となった。	D 層の割合を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超	1 年生 D	事前の取り組みから意識をさせていくことが必要。事前事後の計画を見直していく。
					2 年生 A	コースごとで差は大きいが、一文コースの D ゾーンの割合が少なかったことが減少に繋がった。進路への意識が高くなってきたことが要因と考える。
⑨	図書貸出数の増加	図書委員会	委員会活動を十分に機能させることができず、貸出数の増加につながらなかった。	図書貸出数 A 年 800 冊以上 B 600 冊以上 C 500 冊以上 D 500 冊未満	D	貸出数の増加のために図書の整理から着手し始めたが、スムーズに運ばなかった。

重点目標 4. 進路指導の充実、特に進学実績の向上						
①	国公立大学合格実績 ○志望校（国公立・難関私大）検討会議の開催	進路指導部	現役 6 校(6 名)、既卒 2 校(1 名)合計 8 校(7 名)が国公立大学に合格。志望校が具体的に固まっている生徒が多かったため、一同が会する出願検討会は行わなかったが、クラス担任と教科担当者が密に連絡をとりながら、生徒個々への働きかけを行うことはできた。	国公立大学合格者数 A 10 人以上 B 7 人以上 C 5 人以上 D 5 人未満	B	現役 5 校(5 名)、既卒 2 校(2 名)合計 7 校(7 名)が国公立大学に合格。特進クラス担任 3 名と部長で生徒志望校の他に他校の可能性についての検討会を実施。私立大学への受験については、家庭的な事情によって左右される部分が大きく、今年度の上位者にはほとんど志望者がなかった。
②	金城大学及び金城大学短期大学部への進学	進路指導部 3 年学年会	社会福祉学部 25 名、医療健康学部 2 名、看護学部 7 名が合格。看護学部合格の 1 名を除く、33 名が入学。	全校生徒に対する進学者の割合＜金城大学＞ A 6%以上 B 4%以上	B	大学への進学者数は 24 名で、全体の 5.0%。内訳は以下の通り。 社会福祉学部：12 名 医療健康学部：3 名

				C 3%以上 D 3%未満		看護学部：10 名が合格。 ※看護学部 1 名を除く、24 名が進学。 子ども福祉への志願者は、今年度、幼児教育学科にシフトしている。看護学部への志願者が増加傾向なので、早い段階から基礎学力を身につけさせる必要がある。福祉においては、福祉関連の職業の待遇改善などがなければ志す生徒の増加は見込めないと考える。また、金城大学福祉学科の魅力が本校生徒には伝わっていないと思う。大学からの積極的な働きかけが急務ではないか。
			ビジネス実務 27 名、美術 4 名、 幼児教育 17 名が合格し、48 名全員が入学。	＜金城大学短期大学部＞ A 16%以上 B 12%以上 C 8%以上 D 8%未満	C	短大部への進学者数は 56 名で、全体の 11. 8%。 内訳は以下の通り。 ビジネス実務：27 名 幼児教育：24 名 美術： 5 名 ※56 名全員が入学。 ビジネス実務は昨年度の数字を維持している。 幼児教育の増加は、子ども福祉を志望する生徒数が移行したことが理由である。 今年度は、学生主体とした本校生徒への魅力の発信や働きかけもあり生徒の反応はとてもよかったように思う。来年度はその点をさらに強化していきたい。
③	一般入試受験者数の増加	進路指導部 3 年学年会	一昨年に一般入試で進路を決定した生徒は 462 名中 43 名で 9. 3%であった。昨年は 420 名中 48 名で 11. 4%。増加率は 123%になる。	一般入試受験者（実人数）の割合を昨年度と比較 A 110%以上 B 105%以上 C 95%以上 D 95%未満	D	一般試験を利用して大学を受験した生徒は、卒業生 476 名中 41 名で、全体の 8. 4%に当たる。昨年度 11. 4%と比較して、75%に減少。
④	就職指導の充実	進路指導部	就職者 45 名のうち 33 名が学校紹介による就職を希望。33 名全員が在学中に就職を内定した。	就職希望者（学校紹介）の決定率 A 100% B 96%以上 C 94%以上 D 94%未満	A	就職者（学校紹介・縁故・公務員）45 名全員が就職を決定できた。

以上